

# デザインと製菓向きの機能性を兼ね備えた サニクリーンのユニフォームサービス

1981年に創業し兵庫で8店を展開するパティスリー「レーブドゥシエフ」では、サニクリーンのユニフォームと衛生用品を使い始めて27年が経つ。日々商品を使用するスタッフから、使い続ける理由について詳しく尋ねた。



南仏をイメージした白い洋館は1階が売り場とイトイン、2～3階が工房となっている。季節のフルーツをたっぷり使用した生・焼菓子のほか、手づくりのアイスクリームが人気。パスタなどの軽いランチメニューも揃い、地域の住民の憩いの場としても2世代に渡って愛されている。



イベントや季節に合わせた焼菓子は、神戸土産としても好評だ。売れ筋はフリーズドライのイチゴをふんだんに使用したマドレーヌ「笑みいちご」230円(税込)、チェリー酒漬けのダークチェリーとクリームをサンドしたダックワーズ「一咲チェリー」270円(税込)など。

## ユニフォーム 着用姿

サニクリーンの「コックコート」：七分袖は、きつちりした印象がありつつ軽くて動きやすいと好評。ネームを入れて個別に管理してもらっている。



レーブドゥシエフ 名谷本店  
神戸市垂水区名谷町 321-1  
TSK 第2ビル 1F  
tel 078-708-5333  
10時～19時  
(カフェ11時～17時 16時L.O.)

シェフパティシエ  
片山陽介さん



兵庫・神戸の「レーブドゥシエフ」は、創業から40年以上になる老舗パティスリー。かつては2社のレンタルユニフォームおよび衛生用品を併用していたが、1995年に一本化する際にサニクリーンを選んだ。

製造部責任者を務める片山陽介さんは、コックコートの使い心地についてこう話す。「見た目はしっかりしていて、着ると薄くて軽いです。七分袖で作業の邪魔にならないし、袖の内側にゴムが入っているのも衛生的でいいですね」。

同店では店頭に立たない製造部のスタッフも、コックコートとコックキャップで仕事をする。食品工場用よりも職人の意識が高まり、モチベーションが保てるのがその理由だ。その点でデザイン性も重視しており、アクセントカラーが入った個性のある商品を採用している。

「何よりも、担当者が優秀なので安心して任せられます。ちょっとしたほつれ等も直してくれるし、枚数やサイズ変更にも即対応してくれる。コロナ禍ではアルコールスプレーの確保など無理なお願ひもしましたが、何とかしてくれました。みんな明るくて、気持ちよくやりとりできるんですよ」(片山さん)。

今ではマットやサニタリー用品もまとめてサニクリーンで注文している同店。ユニフォーム回収・配達日には、それらの在庫も点検して補充してくれるという。日々のパートナーとして、まだまだ長い付き合いになりそうです。



女性用コックコートは、同じ型で赤のラインとボタンの商品を採用。毎日オープンの前に立つうえでは生地が重要なため、りりしい姿と高い作業性が両立できるサニクリーンのユニフォームは最適だ。